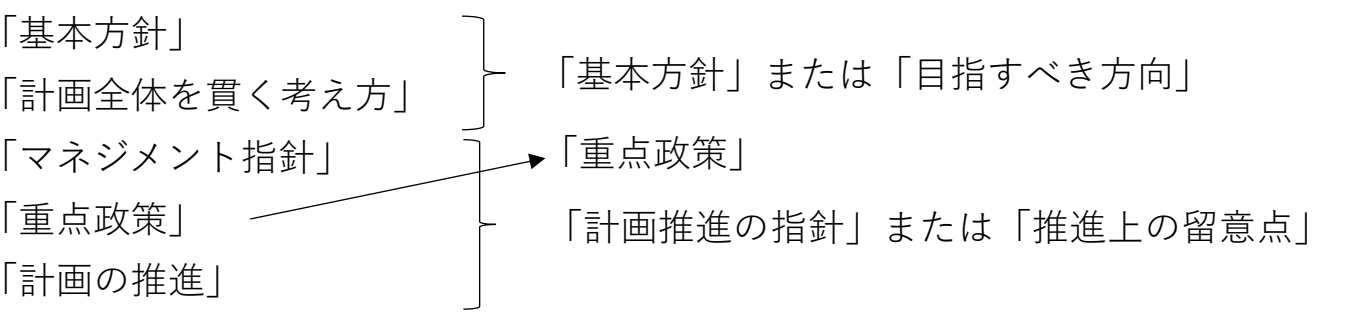


<p>全体構成について</p>	<p>【小林委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本計画固有の施策とは、SDGsに照らした政策アセスやまちづくりセンターへの分権化、緊急時・非常時の体制整備など、そういった横串施策がまず説明されるべき。これまでの実現の方策の内容をもっと魅力的にして重点政策の前段の位置に置くのがよいのではないか。 縦割り風に見える施策は、全部署が係わる横割り施策であるように位置付けて欲しい。 	<p>【中村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本計画の体系を再構成すべきではないか。  <p>「基本方針」 「計画全体を貫く考え方」 } 「基本方針」または「目指すべき方向」 「マネジメント指針」 } 「重点政策」 「重点政策」 } 「計画推進の指針」または「推進上の留意点」 「計画の推進」 }</p> <p>「基本方針」 「持続可能な未来の確保+あらゆる世代が住み続けたい世田谷をともにつくる」という目標のもとに「参加と協働を進める」「区民の生命と健康を守る」「子ども・若者を中心に据える」「多様性を尊重する」「地域・地区の特性を踏まえる」「日常生活と災害対策・環境対策を結びつける」を位置づける。</p> <p>「計画推進の指針」 (1) SDGsの推進 (2) DXの推進 (3) 緊急時・非常時の体制整備 (4) 情報発信・情報公開 (5) 組織運営の変革（働き方改革、公共施設の有効活用、人材育成・調査研究、行政評価を含む）(6) 他自治体や国際社会との協力連携</p>	<p>【羽毛田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「計画全体を貫く考え方」「マネジメント指針」「計画の推進」の位置付けの違いが分かりづらい。次ページとの間に、これらの項目の関係性を図示したツリー図やフロー図を挟めないか。
<p>計画策定にあたって考慮すべき事項 (2ページ)</p>	<p>【羽毛田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「バックキャスト」「EBPM推進」「目標指標の設定のあり方」は計画策定にあたっての手法だが、「区民意見の反映」は計画が向かうべき方向性自体を見極めるための一次情報であり、それらより前段に記載すべき。 「バックキャスト」の説明について、「臨機応変かつ迅速な対応」はフォアキャストの典型であり、「予測不可能な事態への対応」と「実現したい未来の姿へ近づくこと」を両立させるためにバックキャストの視点が必要なのではないか。 		
<p>基本計画体系イメージ (4ページ)</p>	<p>【羽毛田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> どの順序で理解していくべきポンチ絵がわかりづらい。特に、「ワクワクする～～」という動的でダイナミックな表現と「持続可能な～～」という安定的なイメージの表現の繋がりがわかりづらい。 		
<p>基本方針 (5ページ)</p>	<p>【羽毛田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「レジリエンス」という文言について、区民全般に向けては難解すぎる表現であり、もっと簡単な言葉に直せないか。子ども・若者・高齢者でも読める文章にしたい。 		
<p>計画全体を貫く考え方 「参加と協働」 (6・9ページ)</p>	<p>【中村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「基本方針」、「計画全体を貫く考え方」、「計画全体を貫く考え方の基軸」と3レベルになっていて、わかりにくい。「あらゆる世代が住み続けたい世田谷をともにつくる」という目標に向けての不可欠な要素という位置付けで良いのではないか。(9ページは不要) 	<p>【羽毛田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「参加と協働」が第一に掲げられている点は違和感はないが、町会加入率が年々減っている明確な現状課題が目前にありながら「さらなる促進」を謳うのは認識がおおいに甘いと感じる。「参加と協働」は重要ではあるが、説明文の表現はやや重厚で区民の心に届きづらくなっていると思う。大多数の区民は日々忙しく生きていて地域活動に主体的に参加する余裕がないことが多く、意見表明することさえも一般の人々にとっては難しい所作であると思う。また、「主体的な参加」だけでなく、DX進展、副業やリモートワークの普及などを背景に「参加」のありようや程度も多様になっていくものと思われる。「主体的な参加への意欲を引き出すコミュニティづくり」だけでなく、「区民それぞれのライフスタイルにあった多様なかたちでの地域参加」を推進するなどで、「参加と協働」の門戸を広げることを考慮してほしい。例えば、身近な例ではふるさと納税は区民として自分のお金を何に使ってほしいか「意思表示」という意味できわめて重要な「参加」の仕方であると思う。 「公共の新たな価値」とはなにか皆目イメージがつかないので、もう少し具体的な表現に直せないか。 	
<p>重点政策をつなぐコンセプト (13ページ)</p>	<p>【中村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ワクワク感の創出」に変えて「あらゆる世代が住み続けたい世田谷をともにつくる」としてはどうか。 		